

# 特集 | うべ女子ラボの取組 女性も男性も “暮らしやすい宇部市” を目指して



## 市政への提言

令和8年2月27日(金曜日) 提言書提出式(市役所市長応接室)

# 「つながり」の重要性 「老年期の幸せ」にフォーカス

**女性たちが  
つながり・元気を生み出す宇部**

さまざまなカテゴリーの女性たちによるワークショップを定期開催し、そこで集まった意見やアイデアを市政に活かすことができる仕組みをつくる

- 「うべ女子会」の定期開催
- 女性のアイデアやニーズを市政に届ける仕組みづくり(おしゃべり目安箱)

**女性が年齢を重ねるのが  
楽しみになる宇部  
(安心して老いることのできる宇部)**

将来に向けた不安が大きくなる時代、人々にとって重要になってくる家族以外の「地域とのつながり」を充実させる

- 女性が求める多機能を備えた「小さな拠点」の充実
- 参加できるイベントやグループの可視化(デジタル化)

## 活動

### プロジェクトの始動

令和7年度、宇部市は、女性の暮らしやすさを向上させる取組について調査研究を進め、性別を問わず全ての市民が各々の個性や能力を發揮できるまちづくりを推進するため、「**女性の暮らしやすい宇部市をつくるプロジェクト**」を始動しました。

山口大学副学長・教授の鍋山祥子氏を座長にワーキンググループ、通称「**うべ女子ラボ**」を結成。メンバーは、社会人、主婦、大学生、市の職員など、大学生のオブザーバーを含め計12人で構成されています。

令和7年7月に第1回会議を開催。宇部市の「よいところ(便利など)」、「わるいところ(不便など)」についてメンバーが意見を出し合い、最初の意見交換が行われました。

同時期に、デジタル庁が仕組みを提供する「**地域幸福度(well-being)**」指標に基づいたアンケート調査を実施。「市民の暮らしやすさ」と「幸福感」について、数値化、可視化し、鍋山教授により、結果分析が行われました。

第2回会議では、鍋山教授から、アンケートの結果分析についての報告、説明があり、また次のタウンミーティングで開催する市民参加型ワークショップのテーマの選定等について、協議を行いました。

アンケートの結果も踏まえ、選ばれたテーマは次の6つです。

- ①安心・安全に暮らせる地域
- ②子ども・子育てに優しい地域
- ③女性が働きやすい地域・職場環境
- ④女性や若者の意見が反映される地域
- ⑤安心して老いることができる地域
- ⑥女性や誰もが利用したくなる公共施設

### ワークショップ「女性の暮らしやすい宇部市を描く」

令和7年12月13日(土)宇部市役所市民交流棟交流ホールにて、タウンミーティングを行いました。

まずは、鍋山教授から、今の宇部市の強み(暮らしやすさ)・弱み(暮らしにくさ)、「女性にとっての『暮らしやすさ』とは何か」、「女性の暮らしやすさ」について調査・研究することの意義などについての説明があり、ワークショップへと入っていきました。

当日は、高校生を含め41名の参加者があり、8つのグループに分かれて、各テーマに沿って意見を出し合い、最後に各グループで出された意見をまとめ、発表をしてもらいました。

参加者アンケートの回答からは、「**市民の意見を反映したまちづくり**」を要望する声、や「**いろいろな世代の人と意見交換できて楽しい**」などの感想がありました。

### 市長への提言(報告書)の提出

令和8年2月27日、報告書提出式が行われました。座長の山口大学 鍋山教授、メンバー9人のうち8人と学生オブザーバー2人の出席のもと、令和7年度の活動成果として、市への提言を含む報告書を提出していただきました。

会議の様子

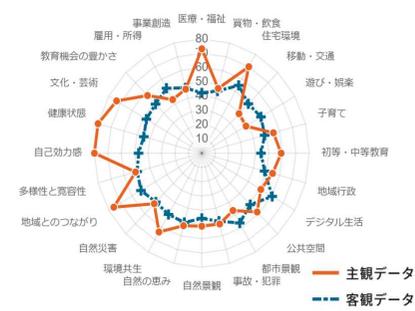


宇部市の魅力と不足

- 自然が豊か  
野菜・魚がおいしい  
空港へアクセスがしやすい  
人がやさしい
- 仕事の選択肢が少ない  
歩いて行けるスーパーがない  
屋内で遊べる場所が少ない  
バス・電車の便が少ない

第1回会議から

宇部市の分野別満足度



デジタル庁 | 地域幸福度 (Well-Being) 指標  
https://well-being.digital.go.jp/